

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2018年 第52週 (12/24-12/30) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	52週	51週	50週	49週
小児科	15	17	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	24	26	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 12/17-12/23 51週
		注意報	12/24-12/30	12/17-12/23	12/10-12/16	12/3-12/9	
			52週	51週	50週	49週	
小児科	RSウイルス感染症		4 0.27	2 0.12	2 0.11	0 0.00	28 0.21
	咽頭結膜熱		4 0.27	2 0.12	2 0.11	2 0.11	73 0.54
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	41 2.73	64 3.76	52 2.89	53 2.94	502 3.75
	感染性胃腸炎		153 10.20	208 12.24	204 11.33	171 9.50	1,336 9.97
	水痘		10 0.67	9 0.53	10 0.56	9 0.50	105 0.78
	手足口病		0 0.00	8 0.47	6 0.33	5 0.28	63 0.47
	伝染性紅斑	○	17 1.13	13 0.76	14 0.78	23 1.28	126 0.94
	突発性発しん		5 0.33	5 0.29	4 0.22	6 0.33	41 0.31
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	1 0.06	1 0.06	10 0.07
	流行性耳下腺炎		0 0.00	1 0.06	4 0.22	1 0.06	8 0.06
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓	226 9.42	276 10.62	152 5.43	50 1.79	1,871 8.78
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	2 0.40	0 0.00	2 0.40	23 0.66
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(11件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	IGRA検査	侵襲性インフルエンザ菌感染症	女性	10歳未満	病原体の分離・同定
結核	男性	80歳代	病原体等の検出等				
腸管出血性大腸菌感染症	女性	10歳未満	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	侵襲性髄膜炎菌感染症	男性	60歳代	病原体の分離・同定
				侵襲性肺炎球菌感染症	女性	60歳代	病原体の分離・同定
アメーバ赤痢	女性	50歳代	病原体の検出	水痘(入院例)	女性	10歳未満	抗体の検出
急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
-	-	-	-	百日咳	男性	10歳代	抗体の検出等

・第52週は、結核2件(177)、腸管出血性大腸菌感染症1件(24)、アメーバ赤痢1件(3)、急性脳炎1件(12)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(3)、侵襲性髄膜炎菌感染症1件(1)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(25)、水痘(入院例)1件(3)、百日咳2件(223)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

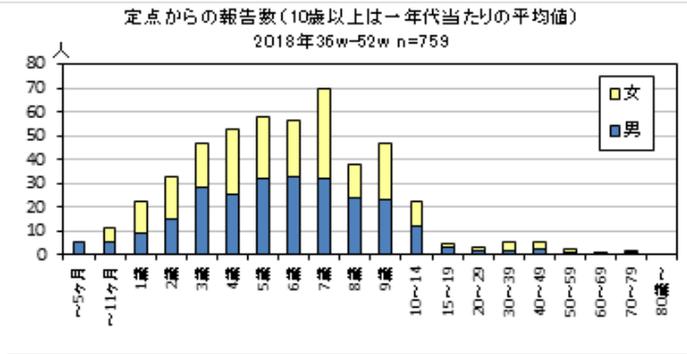
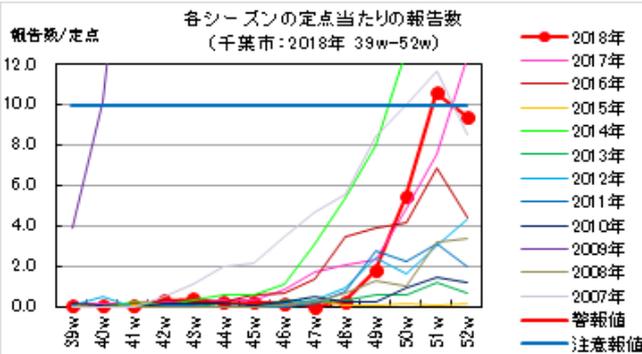
## 定点当たり報告数 第52週のコメント

**<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>** 前週から減少し2.73となった。過去10年の同時期と比べると多い。  
**<伝染性紅斑>** 前週から増加し1.13となり、過去10年の同時期と比べると最多となった。緑区で流行発生警報開始基準値を上回り、稲毛区で流行発生警報開始基準値と並んでいる。  
**<インフルエンザ>** 前週より減少し9.42となり、流行発生注意報基準値を下回った。過去10年の同時期と比べるとやや多め。

### ■ トピック ■

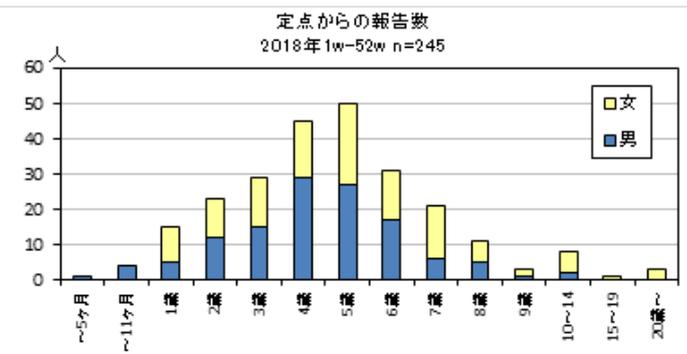
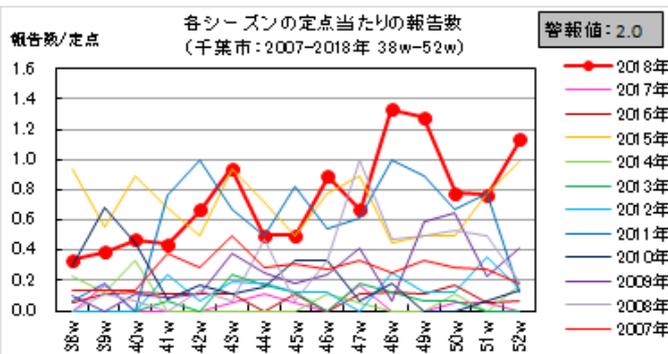
#### <インフルエンザ>

全国レベルの第51週は、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では愛知県、北海道、三重県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の第52週は前週より減少し9.42となり、流行発生注意報基準値(10.0/定点)を下回りました。過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。区別の発生状況は中央区(17.8/定点)で流行発生注意報基準値を上回り最多で、同区の30歳代で最も多く、一年代当たりでは3歳で最も多く発生報告がありました。その他、稲毛区で流行発生注意報基準値と並んでいます。今シーズンである2018年第36週から第52週の累積報告数は759件で、性別では男性が50.7%(385名)、女性が49.3%(374名)で、年齢階級別では7歳(9.2%:70名)、5歳(7.6%:58名)、6歳(7.4%:56名)の順で多くっており、20歳未満は全体の75.6%、10歳未満は全体の58.0%となっています。



#### <伝染性紅斑>

全国レベルの第51週は、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、宮城県、東京都、新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ平均レベルとなっています。千葉市の第52週は前週から増加し1.13となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は緑区(3.0/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の4歳及び6歳で最も多く発生報告がありました。その他稲毛区で流行発生注意報基準値と並んでいます。2018年の累積報告数は245件で、性別では男性が50.6%(124名)、女性が49.4%(121名)で、年齢階級別では5歳(20.4%:50名)、4歳(18.4%:45名)、6歳(12.7%:31名)の順で多くなっています。



#### <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第51週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、北海道、石川県、鳥取県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第52週は前週から減少し2.73となりましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は緑区(9.33/定点)で流行発生警報開始基準値(8.0/定点)を上回り最多で、同区の4歳及び6歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から第52週の累積報告数は627件で、性別では男性が52.8%(331名)、女性が47.2%(296名)で、年齢階級別では4歳(16.4%:103名)、5歳(13.9%:87名)、6歳(12.8%:80名)の順で多くなっています。

